

三菱ガス化学株式会社「2025年度第3四半期決算説明会」質疑応答要旨

日時：2026年2月10日(火) 17:00～18:00 (ウェビナー/電話会議)

説明者：取締役専務執行役員 財務経理、CSR・IR担当 / 北川 元康

(本資料に関する注意事項)

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

Q1: BT 材料について前回予想では下期反動減を見込んでいたが、結果的に 3Q は好調に推移したと理解している。どのような点が想定と異なったのか。また、値上げの考え方とその効果が表れるタイミングについて説明頂きたい。加えて、品質対応強化に伴うコスト増の今後の見通しは如何か。

A1: 前回予想では、上期の仮需から生じる反動減と原材料調達への制約から下期の販売を慎重に見ていたが、結果的に 3Q は 2Q を上回る販売となった。用途としては従前より FC-GSP 向けが殆どであり、AI 関連での需要増は影響しないと考えていたが、実際には AI 関連の恩恵もあって、好調な販売を維持している。値上げについては安定的なマージンを確保するため原材料コストの上昇を転嫁すべく取り組んでいる。原材料価格の上昇も続いており、必要に応じて二次的な値上げも検討していく。値上げの効果については、受注残もあるため来期以降を見込んでいる。品質対応強化に伴うコストについては、少し明るい見通しが出てきており、改善方向を見込んでいる。

Q2: 新製品はどのような用途をターゲットとしているのか。

A2: 超低熱膨張用途となり、AI 関連等、FC-BGA での採用を目指している。また、この新製品は、ガラスクロス不足に対しても、ソリューションを提供出来る材料だと考えており、非常に期待している。

Q3: 旧機能化学品セグメントの 3Q、4Q の営業利益は横這いだが、各事業の損益動向は。

A3: 無機や PC にて減益を見込む一方、POM や光学材料にて増益を見込んでいる。POM は厳しい環境が続いているが、当社品は品質面で優位性を保っており、4Q では販売数量増加を見込んでいる。光学材料も 1 月は最終用途での需要が堅調に推移していると聞いており、3Q 比増収を見込んでいる。

Q4: BT 材料が AI サーバー関連で伸びているとのことだが、その具体的な用途は何か。T ガラス代替品の活用やタイの新工場の立ち上がり等、貴社がシェアを伸ばせるチャンスだと捉えており、中期的な視点で説明頂きたい。また、タイ拠点の能力増強後、日本・タイの工場の稼働率はどの程度なのか。

A4: メモリや PMIC 等、AI から派生した幅広い分野で CSP 基板の需要拡大が生じている。T ガラス不足への対応として、代替品を使用した製品の販売も開始している。今後も複数ソースのガラスクロスを評価して顧客に提案していく考え。タイの新拠点はタイミング良く立ち上がっており、足元の旺盛な需要に応じていく。両工場の稼働率は開示していないが、稼働率は上がってきている。

Q5: 新製品は、GPU/ASIC での採用について手ごたえはあるのか。

A5: 新製品は GPU/ASIC 用途での採用も期待している。今期の販売は限定的となるが、来期はしっかり数量を伸ばしていきたい。

Q6: EL 薬品についてメモリ、ロジックともに顧客の需要は回復傾向にあると見ているが、EL 薬品の 4Q から来期に向けての需要環境・損益見通しについて説明してほしい。

A6: 韓国はメモリ向けが好調を維持している。米国の主要顧客の稼働率も上がってきており、全体的に需要は回復傾向であり、来期以降もその流れが継続すると見ている。一方、地域や拠点毎に需要に濃淡ある状況が続いており、課題が出てきた拠点に対しては必要な対策を打っている。損益面では、能力増強に伴う償却費増はあるものの、コスト削減による採算改善にも努めており、採算改善を期待している。

Q7: MXDA 事業の主要製品および MXDA 欧州プラントの状況のアップデートをお願いしたい。

A7: 欧州プラントは前回発表よりステータスに変更はないものの、最終的な詰めに入っており、そう遠くない時期に次の判断をしたいと考えている。MXDA 事業について、販売は回復傾向にあるが、欧州需要の低迷は継続している。誘導品の 1,3-BAC は、中国市場の需要が弱く、厳しい事業環境が続いている。また、芳香族アルデヒドは堅調に推移している。

Q8: BT 材料について、ガラスクロス代替品の立ち上がり早い印象だが、その要因は何か。

A8: 顧客も材料不足を強く認識しており、急ピッチで認証作業を進めていただいている。当社としても従来品に加えて代替クロスを使用した製品を積極的に提案していく。

Q9: PC 事業について直近の状況および収益改善策の進捗について教えて欲しい。

A9: PC 事業は市況低迷の影響を受けているが、高付加価値領域においては当社の優位性を確保できている。ただし、同領域においても競争環境は厳しさを増している。収益性改善に向け、昨年6月の経営概況説明会で公表した構造改革の議論を進めている。ただ、PC 事業自体は事業ポートフォリオの一つとして重要だという認識は変わっていない。生産能力削減や品種の統廃合、販売体制の合理化に加え、中国 EV 向けの高機能製品の創出に向けた R&D 体制の強化等も急ぎ進めていく。

Q10: OPE は AI サーバー向けで堅調に推移していると考えて良いのか。

A10: 3Q は前回予想通り、順調な伸びを示した。前期と比較しても非常に高い成長となっているが、成長率以上に顧客や用途における広がりを重要視している。

Q11: OPE は今後も競合他社に対する優位性は損なわれることはないのか。また、中長期的な見通しと能力増強の考え方も含めて説明いただきたい。

A11: 既存グレードの供給体制を強化して足元の需要増加を着実に捉えていく。中長期的には低誘電樹脂の要求特性が更に高まっていくと考えており、樹脂組成や配合を変えた新規材料の開発も進めている。

Q12: POM 市況下落によりかなり厳しい環境と思われるが、貴社事業が堅調に推移している要因は何か。

A12: 原燃料価格が低位に推移しているため、一定の利益水準は確保出来ている。ただ、状況が厳しいことに変わりなく、品質の優位性を活かして、高付加価値品へのシフトを進めていく必要がある。

Q13: BT 材料でのガラスクロス不足は来期においても影響が継続するのか。

A13: 今後の需要増に対しては当社だけでは如何ともし難い部分もあるが、顧客からはガラスクロス代替品の認証のペースを上げるとのコメントも得られている。影響が解消する具体的な時期は申し上げられないが、以前よりも明るい兆しが見えてきている。

Q14: 株主還元について、今年度は当期純損失を見込む状況のため、自社株買いは行わないと理解しているが、来年度の自社株買いに対する考え方を教えてほしい。また、総還元性向 50% 目安を設定しているが、これは単年度なのか、それとも中計 3 年間の平均と理解すれば良いのか。

A14: 自社株買いの有無や金額によって単年度での総還元性向は大きく変動するため、基本的には中計期間を通した平均と理解いただきたい。また、資本政策全体としては、D/E レシオについてレンジ内での管理を行っている。レンジ内に収まっていたとしても株価や PBR の状況などを総合的に考慮し、機動的に還元策を検討していきたい。

Q15: メモリ価格の上昇によりスマホメーカーの生産台数が減少するという話も出ている。貴社の光学樹脂ポリマーはスマホで高いシェアを持っているが、どのような影響が生じるのか。

A15: 当社としても懸念しており、スマホの価格高騰や生産台数の減少につながってしまう可能性があると考えている。当社としては、そのような状況においても付加価値を高めた新グレードの上市を継続することで、製品ミックスを改善し、今期比で増収を目指したいと考えている。

Q16: 過酸化水素について、中国拠点での減損損失計上と四日市工場での生産停止、それぞれの背景を教えてください。また、これらにより将来的に損益の改善を期待することができるのか教えてください。

A16: 中国拠点は、超純過酸化水素ではなく過酸化水素の製造子会社であり、一般工業用向けから超純過酸化水素向けまで幅広く製造している。減損損失計上に至った背景としては、高付加価値な半導体洗浄向けグレードの比率を高めることができず、製品ミックスの高度化が進まなかったためである。既に改善策を進めており、来期以降は損益を改善していきたい。四日市工場については、当社として半導体洗浄向けへのシフトを進める中で拠点の最適化を進めており、設備の老朽化や一般工業用向け需要の減少等を考慮し、四日市工場の設備を停止する判断に至った。収益への影響について、メンテナンス費用の低減等のメリットがあると思われるが、詳細はまた別途説明したい。

以上